

紀 要

第 22 号

大阪府障害者福祉事業団

(紀要、22年度)

はじめに

当事業団は、昭和44年に大阪府により設置されて以来、先駆的な知的障がい児者支援に関する事業の多くを受託して来ました。大阪府の知的障がい児者福祉を増進することを、自らの使命と考え運営してまいりました。この紀要も、さまざまな実践で学んだことを発信すべく既に21号を発刊してまいりました。

当事業団が受託運営してきました大阪府立金剛コロニーは、社会福祉が地域福祉中心に見直される中で大きくあり方が見直されました。また、民営化の方針も大阪府から示されています。このような中、当事業団は、事業団改革中期計画(案)を作成しました。

金剛コロニー利用者が安心して地域生活へ移行できるように、他法人と連携し計画的に取り組んでいます。また、地域生活支援が安定して行えるように日中支援や短期入所事業を行う地域生活支援の拠点施設とケアホーム等の整備も行っています。当事業団はグループホームが制度化される前から、地域移行支援や地域生活訓練に取り組んできています。特に平成17年度以降は、大阪府や堺市の地域移行支援センター事業受託等をし、約200人の利用者が地域生活を始めることができました。また、関係市のニーズにも応え、相談支援事業や自閉症等の発達障がい児の療育等支援事業も積極的に受託し、地域生活支援に不可欠な支援のネットワークの構築にも取り組んでいます。

一方、地域生活への移行が困難な医療ケアが必要な利用者には重症心身障害児施設すくよかを、高齢利用者には、特別養護老人ホームかなびのさとを整備しました。

法人としては大阪府の指定出資法人の指定解除を行い、平成23年度に法人の民営化を行います。

今回の紀要は、自閉症児支援センター青空の取組みの報告です。事業団は、金剛コロニーで多くの成人の自閉症等の利用者支援を行ってきました。中には激しい行動障がいを伴う利用者もいます。これらの利用者は、本来の障がいだけでなく2次障がい、3次障がいといわれる、適切な支援がなく育ったがための多くの課題を持ってしまったと思われました。これらの経験から、早期からの発達や障がい特性に応じた療育が是非必要と考え、自閉症児支援センターの事業を始めました。まだまだ、さまざまな研究がなされている分野ですが、今回は、視知覚・視機能訓練の研究報告をいたします。

地域生活を支援する拠点施設として整備された、じょぶライフだいぜんからの報告は、トラブルが多い利用者の支援を、生活しやすい環境を整えることで支援できないかと取り組んだ報告です。また経験の少ないチームが、取り組みのなかでPDCAサイクルの支援が構築されていく参考としていただければと思います。

もうひとつは、重症心身障害児施設すくよかからの報告です。口腔ケアの必要な利用者が多く、個々に応じた適性なケアが必要となっています。さまざまな職種が連携し、看護・支援をチームとして取り組んだ報告です。

私たちは、法人の理念「ともに生きるこころを育み ともに歩む社会の実現」のもと、障がい者福祉に寄与できる法人でありたいと願っています。是非、多くのご講評をいただき、より研鑽に努めたいと思います。よろしく願いいたします。

平成23年3月

南エリア研修企画委員長 久保田 全孝

目次

はじめに

Ⅰ 発達障がい児への視知覚・視機能訓練	01
ジオボードを活用した青空の取り組み	
自閉症児支援センター青空／須郷紳弘・坂浦真司・黒田一恵・鈴木伸子	
Ⅱ Nさんの対人トラブル、	
所在・日課などの混乱解消、改善することを目指す	19
じょぶライフだいせん生活介護（2009年度OJT担当支援員）	
佐々木志保・鯉谷早苗・崎山真代・石本いづみ・楠本円里可・中川志織	
Ⅲ 口腔ケア実施に向けての取り組み	38
職員への教育的介入	
重症心身障害児（者）施設すくよか みなみ棟摂食・嚥下研究チーム	
下中藍・小坂美幸・辻野綾子・善利成臣・阿見太津也・東野裕子・江原文子	

編集後記